

2021 Vol. 38



大宮盆栽美術館





漫画会館

Cartoon Art Museum

東武大宮公園駅 Tobu Omiyakoen Sta.







JR土呂駅 JR Toro Sta.



まち歩き 東武野田線を歩く;大宮公園駅



記録写真家、柿内未央



東武野田線を歩く;大宮公園駅

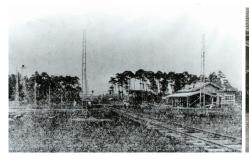
1929(昭和4)年に開業した大宮公園駅は、名前のとおり大宮公園の最寄り駅、サッカー場・野球場・弓道場などのスポーツ施設や博物館、盆栽村も近く、住民以外の利用客も多い駅です。オレンジ色の人が多い日は大宮アルディージャの試合がある日、外国人のグループは盆栽村帰りと察しがつきます。 Jリーグの大宮・柏戦を「野田線ダービー」と呼ぶのだとか、醤油を運んでいた野田線が、今はサッカーファンを運んでいるなんて夢のようです。

駅から公園へ向かう途中に、私の母校大宮北中学校があります。大宮公園は通学路で、写生会やボート池1周マラソンなど、学校行事や体育の授業でも訪れました。1964(昭和39)年の東京オリンピック前には、生徒全員で園内の掃除をした覚えがあります。

大宮公園

大宮公園は 1885 (明治 18) 年に「氷川公園」という名前で開園しました. 近郊や東京からの観光客に人気があり、1891 (明治 24) 年,正岡子規は園内 の旅館・万松楼に 10 日間ほど滞在しています. 樋口一葉,夏目漱石,寺田寅 彦など多くの文学者も訪れました.

「鉄道唱歌」の作詞者・大和田建樹は著書の『雪月花』(1897年刊) に, "日曜日に妻と子どもをつれて大宮公園に行き, 万松楼で温泉と食事を楽しんだ"ということを書いています. 行き先は「大宮はいかが」という妻の言葉で決まりました. 行きは10時35分上野発, 帰りは5時44分発の汽車とあるの



昭和6年の大宮公園駅 (さいたま市アーカイブスセンターより)



昭和 41 年の大宮公園駅 『大宮と鉄道』(大宮市 2000 年発行) より

で、東京から日帰りで行く のにちょうどよい行楽地 だったのでしょう.

この頃、園内には万松楼の他に八重垣、石州楼などの旅館や茶店があり、公園の面積の3分の2を占めていました。店からの借地料で園内の管理や整備をしていたようです。そのため遠足に来た生徒たちの休憩場所もありませんでした。そこで県は1921(大正10)年、本多静六に新しい公園の設計を依頼し、拡張整備を始めることにしました。



*遊園地ホテル

1921 (大正 10) 年, 現在「埼玉百年の森」のある場所に「遊園地ホテル」ができました. ここでは「渋沢栄一講演会」や「盆栽大交換会」などの行事も開催されたそうです. 戦後も建物はありましたが, ホテルとして使われることはなく, 1972 (昭和 47年) に解体. ドーム型の屋根のこの建物を覚えている同級生もいますが, 私の記憶には全く残っていないのが残念です.

*ボート池

関東大震災を経て、1933(昭和8)年に児童遊園地、1934(昭和9)年に野球場と舟遊池が完成、翌1935年には地元有志たちの尽力により、池でボート遊びができるようになりました。戦後もボート池として親しまれてきましたが、2000(平成12)年にボートは終了しました。今でも通称は「ボート池」です。

*競輪場

大宮競輪場は"中学校と向かい合わせ"という珍しい立地です。正式名称は「大宮公園陸上競技場兼双輪場」、最初から競輪場として造られたわけではありませんでした。第12回東京オリンピックの会場候補として、1939(昭和14)年に双輪場、1940年に陸上競技場が完成。オリンピックは中止になりましたが、

国内競技の会場として使われました. 大宮競輪が始まったのは 1949 (昭和 24) 年1月. 東日本初の競輪でした. 大宮北中はその3か月後に開校しています.

*飛行塔

池のある低地から氷川神社に向かって行くと、遊園地と小動物園があります. 大宮在住の人だけではなく、近隣の人なら誰もが子ども時代に来ているだろうという場所です.ここのメインは何と言っても飛行塔.1950(昭和25)年に設置され、私が小学生の頃にもありました.親・子・孫と3世代で利用している家庭もあるのではないでしょうか.ほぼ変わらぬ姿である稀有な存在です.

天神山

公園の門を出て北中の正門に向かうと、道は上り坂に……少し高くなったこの辺りを天神山と言います。前述の『雪月花』(1897年刊)にはこう書かれています。《〔万松〕楼のうしろに田を隔てて岡あり。天神山といふ。草深く花多く、糸の如き路は末絶にて人を迷はさんとす》。万松楼は今の遊園地の所にあり、競輪場のある所は見沼から続く田んぼでした。その向こうの天神山までは見失いそうな細い道があるだけ。野趣に富んだ所だったことがわかります。

小高い岡を"山"と呼んでいたのはわかりますが、天神というのはいったい何だろうと調べてみました。『明治32年の氷川公園図』には公園から少し離れたこの辺りに、神社の地図記号と「天神社」という文字が記されています。『大宮案内 [明治43年版]』掲載の地図中には「天神山」があり、文中にも「道灌の城址ある天神山」という文言、『大宮案内』の[大正3年版]では「道灌の曲縁の天神山」とあります。明治32年には天神社があったことがわかりました。

秋山喜久夫の『大宮の地名 下巻』(1975 年刊) に、《子供の頃、現在の競輪場の北側台地を「天神山」と呼んでいたが、正式の地名ではないらしく、『新編武蔵風土記稿』にも『足立国郡村誌』にも出ていない、今はただ其処にある牛乳屋さんにその名が残っているだけである》と書かれていますが、こちらも由来など詳しくは触れていませんでした。

そう言えば、私が中学生の頃にはここに牧場があって牛が飼われていました. 大宮に引っ越してきて初めて知った「天神山牛乳」は、牧場が製造直売していた大宮の「ご当地牛乳」だったのです。久しく牛を見ないけれど、牛乳屋さんはいつからあって、今はどうなったのだろう? そして天神山の由来は? 気になることばかりです。そこで天神山牛乳の井上さんにお話を伺いました。

---初代は1852 (嘉永5) 年生まれの井上吟三郎さん. 1892 (明治25) 年に



↑昭和30年代の天神山牧場

→天神山牧場で井上家の人々 (大正9年撮影, 個人蔵)

前列中央が吟三郎さん、後列左端が傳吉さん、 右端の抱かれている赤ちゃんが3代目、禮三 さん、



杉戸町から移住してきて酪農業を始めました. 『大宮案内』には(明治43年版にも大正3年版にも)「搾乳業 井上吟三郎」と名前が載っています.

井上さんのお宅の敷地内に、天神社(非公開)があります。石が削れて銘などは読み取れませんが、吟三郎さんが来た時には既にあったのではないかと



天神山牛乳とボート池

のこと、地名の由来はこの辺にありそうです. 1920(大正9)年の井上家の集合写真を見ると、 2代目の傳吉さんが着ている印半纏には「天神 山牧場」の文字、早くから「天神山」という名 称だったことがわかります.

1950 (昭和 25) 年, 3代目の禮三さんが「有限会社天神山牛乳」を創業し, 牧場直売の牛乳を販売してきましたが, 2001 (平成 13) 年, 禮三さんから代替わりをした時に, 乳牛 20 頭は他の牧場へ移動し, 牛乳の製造は他の業者に委託することになりました. その後は販売業のみ継続しています. 今は宅配だけで店頭販売をしていませんが, ご当地牛乳の「天神山牛乳」は健在でした. 牛舎や牛乳製造工場のあった場所はコインパーキングになっています.



現在の盆栽村

盆栽村

大宮公園駅から野田線の踏切を渡って、公園の反対側に行くと「大宮盆栽村」があります。住居表示は北区盆栽町ですが、「盆栽村」の方がこの場所らしい気がします。1925 (大正14)年、東京の盆栽業者たちが盆栽造りに適した地を求めて、当時の大砂土村土呂(通称源太郎山)に移住し開墾や道路造りから始めて築き上げました。(この源太郎山も天神山と同じように小高くなった所です)。盆栽村には現在5軒の盆栽園があり園内は自由に見学できます。

1930(昭和5)年から、森鴎外の長男・於菟がここに家を建て住んでいました。『解剖台に凭りて』に「盆栽村小景」という文章を書いてい

ます. 小学生の子どもをつれて東京に出勤する雪の朝, 外に出ると雪は子どもの腰まであって≪止むを得ず弟の方を抱き上げて雪を蹴立てて道を開き, 兄の方は私の足跡を踏ませて≫ようやく駅にたどり着いたものの, 汽車の中でぬれた長靴や靴下を乾かすのに, 上野に着くまでかかってしまったと, まるで秘境のようです. 「老犬」という文章にも≪家の合間には昔の名残りの松林や雑木林が散在し, 整然と通された広い街路の夜は, まばらに立っている街灯の影もほの暗い≫とあります. 当時の盆栽村の寂しさや不便さをさりげなく書いていますが.1931(昭和6)年の大宮公園駅の写真を見るとなるほどとうなずけます.

於苑が見た頃ほどではなくても、盆栽村は緑豊かで、新緑の頃など空気までもが緑に感じられるようでした。スーパーへ買い物に行くとき、遠回りしてでも盆栽村の中の道を通ったものです。そんな盆栽村も大きな松が伐られ雑木林が減り、ずいぶん変わってしまいました。勝手ながら心配をしていたのですが、偶然「大宮盆栽村の景観を伝える会」というパンフレットを見かけ、心配していたのは私だけではないことを知りました。盆栽村には住宅地という一面だけではない、盆栽の歴史や文化を伝える特別な場所という面もあることを忘れずにいたいと思います。 (記・イラスト 並木せつ子)



よみさんぽ編集委員のつぶやき

散歩

朝の5時、カリカリと爪で壁をひっかく音. 冬なら真っ暗な時間. ひっかく音は徐々に大きくなり、その内目覚まし時計がなる. この音の主は犬のBOW、鼻は黒々、耳はピン、目はブラウンで真ん丸、足は長く、尾はくるんと丸まって、身体は白とミルクティー色のツートン、美犬である. 彼が催促しているのは朝の散歩

彼といっしょに街を歩く、歩く…… 不思議とこの街に愛着が湧いてくる. 子どものころから身近だった子安地蔵 (写真 1), 浅間山の噴火の影響を受けた天明の大飢饉の折, 1784 (天明 4) 年に造立された. このお地蔵さまは石でできた笠を 200 年以上もかぶり続け、この地域を見守っている. このお地蔵様に安寧を祈った人たちの姿が想起される. そして、ヨーロッパの街角を思わせる紫陽花小径 (写真 2), 道行く人たちを楽しませる. 近隣の女性が四季折々の花々を育てている.シロツメクサに囲まれ孤高な雰囲気を醸し出す地域猫(写真 3), 右耳にその印がある. 今日は誰にご飯をもらうのだろうか. ドクダミの群生 (写真 4) に圧倒される. 目を奪われる. 日陰だって、道端だって「私はここにいる」と. ドクダミの主張は強烈だ.

朝の散歩には休日がない. 今日くらいゆっくり寝かせて! と頼みたくなる日もあるが,彼の1日で一番の楽しみの時間を共に過ごして1日が始まる.早朝の町並みにはCOVID-19の感染拡大の影響を感じない. いつもの感じがいい.

(記 増田 一世)









写真1

写真2

写真3

写真4

あの街 この街 俊一郎が行く Second Vol.32

欅の林の向こう

埼玉からの帰り道

仕事で、埼玉県内に出かける機会が多くあります。 茹だるような暑さの日の 工事の立会いや、底冷えするような日の現地調査、行政との協議もうまくいく 日もあれば、重い宿題を残して帰る日も……同じ埼玉でも、目的地によってルートはいくつかありますが、川口のパーキングエリアはよく寄り道します。

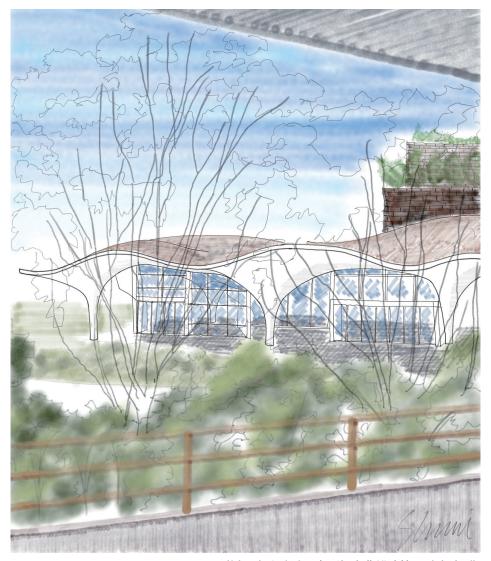
林の中のようなパーキング

高架になっている高速の料金所を過ぎてすぐ、パーキングへ下っていくスロープがあります。大きな曲率のスロープを下っていくと、まるですり鉢の底に降りていくようです。そのすり鉢の底にたどり着くと、欅の並木が目に入ってきて、高速道路の喧騒から守られた穏やかな空間。食事時なら食堂を利用しますが、大抵はコーヒーを1杯飲みながら、欅のシルエットを楽しみつつ、気持ちを切り替えていきます。レジ近くで販売している地元野菜をはじめとした野菜は、スーパーよりもお手頃に買えるので楽しみにしています。ここで買った野菜を使う夕飯を考えながらの帰路は、いいリフレッシュになるのです。

すり鉢の向こう側

短時間の休憩を終え、高速の本線に向かうスロープを上っていくと、途中、雑誌で見たことのある建物が視界に入りました。特徴的な形から、著名な建築家が設計した斎場であることがわかりました。人々の祈りや願いという形のないものに形を与える仕事という意味で、斎場について考えることは建築家にとってこの上ない機会だと思います。この斎場は、建物そのものが木立のようになっていて、なんとなくパーキングの欅とも連動しているように感じるのです。

本線に入るといつもの喧騒に包まれました。すり鉢の上と下、そして斎場の関係が意味深な仕掛けのようにも思えてきます。



(川口市めぐりの森/伊東豊雄建築設計事務所)

とまつりしゅんいちろう都祭俊一郎

1975 年生まれ、生まれも育ちも、東京の下町、 エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計(新築及び改修) を複数行う. (写真 新 良太)



未来を拓く つなぐ・つくるプロジェクト・6

2頭のヤギがやってきた!

本プロジェクトは、認知症の人やその家族のサポート、子ども・若者の居場所づくりを行う団体、地域産業の活性化を目指す人など、地域で魅力的な活動をしている人たちとやどかりの里*でいっしょに進めています。地域の魅力あふれる活動の1つ、芝川ヤギ部からは大きな刺激をもらいました。ヤギという存在が人や活動をつなぎ、ヤギニケーションの輪が広がっていくことを感じながら、このプロジェクトでもヤギの魅力を活かして、人と人、人と自然のつながりを広げたい。そんな思いは日に日に大きくなって……

ヤギを飼いたい!

最初は、ヤギのレンタルを考えていました。芝川ヤギ部のヤギ、楓と桜もとってもかわいいのですが、体も大きく、芝川ヤギ部を立ち上げた岡野友敬さんなしに、私たちがお世話するにはちょっと自信がない。もう少し小柄なヤギなら私たちにもお世話できるのではないか……と、埼玉県内で小柄なヤギを多頭飼いし、除草等でレンタルをしているところへ見学・相談に行きました。そこでヤギのお世話のこと、プロジェクトのことなどいろいろとお話しする中で、レンタルという方法もあるけれど、子ヤギのうちから自分たちで育て、愛着をもって、ヤギといっしょにどんな活動ができるのか考えていくことで学ぶことも多いのではないか、とご提案いただきました。確かに、私たちの都合で、期間限定でヤギをレンタルして触れ合うよりも、飼い育てることで得るものは大きいのかもしれない。でも、命あるヤギを責任もって飼い、育てることができるのかという不安もありました。そのこともお話ししたら、「ヤギは温厚で、体も丈夫なので、飼いやすい動物、飼い始めればかわいくて、お世話せざるを得ない。

*さいたま市内で精神障害のある人の地域生活を支える団体.

そんなに心配しなくても大丈夫!」そんなアドバイスをいただくことで、気持ちは一気に、ヤギを飼って育てていこう! という方向に動いていきました.

そんな相談をした春先は、子ヤギが生まれる季節. 私たちが見学に行ったところにも、子ヤギがたくさん生まれていました. 子ヤギを飼って育てるなら、今! そして、飼うなら、ヤギが寂しくないように2頭……そんな思いで子ヤギを探し始めました.

2頭のヤギがやってきた

ヤギを受け入れようと決めてからは、大忙し. 2頭のヤギが暮らす小屋と自由に動けるスペースをつくるのに、事業所の敷地の木々を伐採し、小屋を建て、フェンスネットを張るための柱を立て、ケージをつくりました。その際には、やどかりの里の職員や家族、障害のあるメンバーやその友人など、多くの人がボランタリーで協力してくれました。中にはチェーンソーや柱を立てるための道具を持参して応援に来てくださった人もいました。切った大量の木は、隣の農家さんが機械を貸してくださって、ウッドチップにしてくださり、とても助かりました

そして、2021年4月、暖かい春の1日、2頭のヤギがやどかりの里にやってきました。2020年12月生まれの異母姉弟、アンゴラ系といわれるヤギです。生後約4か月、乳離れもして、自分で草も食べられるようになっていました。ヤギの特徴でもある角は、2頭とも生えていません。お母さんヤギが無角だったのが遺伝したようです。角のない頭はちょっとくせ毛で、大きな耳が前に垂れているのが特徴です。

4月に開催したプロジェクトの地域巡回の際には、「ヤギのネーミングキャ

ンペーン」と称して、2頭のヤギの名前投票を行いました。その結果を参考に、決まった名前は「**喜々(きき)**と**楽々(55)**」2頭のヤギが、たくさんの喜びや楽しさを感じながら育ち、生きていけるようにもたくさんの喜びや楽したを運んでほしいという期待を



右から喜々(♂), 楽々(♀)

10

込めた名前でした。素敵な名前を選んでもらいました。

しかし、当の2頭はというと……自分たちの名前を覚えてくれた気配はありません。 覚えてくれるのはいつになるのやら……

初めてのヤギ飼育

人里離れた小さな牧場で生まれ、自然あふれる静かな環境で過ごしてきた2頭のヤギ.さいたまにやってきた当初は、慣れない人や初めての環境に相当不安だったのだろうと思います。人が近づくとすごい勢いで小屋の中へ、それも奥のほうに逃げ込んで、びくびくしていました。かわいらしい姿を見ようと寄っていくのですが、あまりの逃げように、かわいそうに思えてしまうほど、ヤギのお世話の中心を担うやどかりの里の職員は「ヤギと仲良くなるにはまず餌付け」、そんな牧場主からのアドバイスを受け、逃げられてもくじけず、怖がらせないよう気をつけながら近寄ります。時間をかけてエサをやり、休日には柵の中でいっしょに過ごす時間を持ちながら、ヤギとの距離を縮めていきました。

さいたまに来て1か月が経った頃には、少しずつ人にも慣れてきました。人が来れば、「エサくれるの」と言わんばかりに「メエ〜」と鳴いて寄ってきます。寄ってくるのに近づくと逃げる……そんな時期もありました。次第に、生まれ持った好奇心を発揮できるようになり、柵内に人が入ると、自ら寄ってき

て、服の端を噛んでひっぱって遊んだりしています。目の前で服がひらひらしていると、好奇心が刺激され、くわえずにはいられないといったところでしょうか。くわえられた服は、ヤギたちのよだれでしっとりするのが困りとったり、2頭で頭突きし合ったりと元気いっぱい! 最近では、リードをつけて、生い茂る青草を食べに散歩に行かれるように出かけても、2頭はいつも寄り添っています。日頃から世話をしている職員の後ろを2頭でついて歩く姿は本当にかわいいものです。



私たちにとって、初めてのヤギの飼育は手探りの連続. 受け入れて間もなく、 楽々の体調が悪くなりぐったりしてしまったことがありました. 急遽ヤギを診 てくれる動物病院を探し、急いで連れて行くという事態に……病院に到着する 頃にはいつもと変わらない元気を取り戻し、事なきを得ましたが、本当に心配 しました. ヤギは丈夫だとは言いますが、やはり生き物、いつも同じ体調とい うわけにもいきません. まだまだ子ヤギで、刺激には慣れていないこと、食べ ると体に良くないものもあることなどから、ヤギ小屋の近くには、注意を呼び 掛ける貼紙をしています. ヤギの健康と幸せを考え、日々の様子を確認しなが ら、大切に育てていこうと思っています.

ヤギが来てから

ヤギが来てから、まだ日は浅いですが、ヤギが運んでくれるご縁を感じられるようになりました。近くに住んでいる女の子の姉妹は、「ヤギかわいい!」と時々見に来てくれます。家族で見に来てくれている人たちもいるようです。散歩をしていると、道を挟んだ向こう側で「あら! ヤギじゃない?」と、お友だちと話している声も聞こえます。「ヤギを見に行くと、鳴きながら寄ってくるもんだから、かわいくてなかなか帰れないのよ」と話される人も、先日の散歩の際は、近くを通った車がスピードを落として、ヤギの散歩する姿を見て行かれました。

この号がお手元に届く頃には、喜々と楽々も地域巡回などのイベントで、地域デビューしていることでしょう。芝川ヤギ部の楓と桜のように、喜々と楽々も人と人、人と自然をつなげ、その環を広げていってくれるといいなと思って

います.

「喜々」と「楽々」をよ ろしくお願いいたします! (記 宗野 文)





〒330-0842 埼玉県さいたま市大宮区浅間町2-244-1

TEL: 0120-156365 (フリーダイヤル) https://www.mainichikogyo.co.jp

芝川ヤギ部の応援グッズ

芝川ヤギ部は、ヤギをお世話することを通 して、人と人とが笑顔で交流をし、地域や 社会がより良いものとなることを目的とし て発足しました。グッズの売上の一部と応

援チケットの諸経費を抜いた収益は、ヤギさんのお薬や小屋の 手入れなどに使わせていただきます。地域に癒やしを与えてく れるヤギ活動をぜひ応援ください!

芝川ヤギ部応援グッズ好評発売中!!





こころの悩み、ちょっと話してみませんか?





見沼区障害者生活支援センターやどかり 電話 048-682-1101 大宮区障害者生活支援センターやどかり 電話 048-795-4720 浦和区障害者生活支援センターやどかり 電話 048-793-6373

*精神障害のある方。そので家族の地域の相談機関です。

片柳地区社会福祉協議会

つながりを大切に活動しています



048 (686) 8601

開設時間

月曜日~金曜日 10 時から 16 時



「よみさんぽ」配布ボランティア募集

やどかりの里では、障害のある人で分担して、地域の皆さんによみさんぽをお届けしています。お散歩のついでなどに、ご近所に配ってくださるボランティアを募集しています。地域や部数はご相談させてください。

連絡先 048-680-1891 (やどかり情報館: 萩﨑まで)

- ◆ボランティアさん募集中:地域巡回「つながるくんカフェ」のお手伝いなど.
- ◆やどかりの里で非常勤職員を募集しています

生活支援センター相談員 9:00~18:00 週1日~ 時給960円~(経験に応じて)/資格(精神保健福祉士,社会福祉士)があればなお可

◆新年度やどかりの里正職員募集

2022 年度新採用(精神保健福祉士、社会福祉士)の募集を開始しています 詳しくはやどかりの里 HP か、右記 QR コードを参照ください.



お問い合わせ) やどかりの里法人事務局 048 (686) 0494

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

こうぬまふくしかい

社会福祉法人鴻沼福祉会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



とうふ屋一豆

TEL 048-854-8000 FAX 048-854-3538 さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりにこだわった本格とうふ。 宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。 大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる"小さなぜいたく"を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910 FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を 使用しています。(一部商品を除く)

職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。





弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。 野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをとおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

○障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています! 問い合わせ先:048-854-6890

鴻沼福祉会事業所一覧

- ●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL: 048-854-6890 FAX: 048-856-0313
- 《はたらく》●つばさ共同作業所(中央区) ●あざみ共同作業所(見沼区) ●そめや共同作業所(見沼区) ●きりしき共同作業所(中央区)
- 《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえでホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ
 - ●なつめホーム(以上、中央区)●のぞみホーム(見沼区)●ひかりホーム(西区)
- 《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢 ●地域活動支援センター来夢(以上、中央区)
 - ●見沼区障害者生活支援センター来人(見沼区)

さいたま見沼よみさんぽ

作者紹介

記録写真家 柿内未央さん(表紙写真)

"人としていかに生きるか"について考えるなかで、平和の基盤は自然との共生きにあると痛感し、埼玉県の明石農園にて自然栽培を学ぶ。

生かされていること、全ての本質が等しくつながり合っていることを感受してから世界が変わり、その一部として生きたいと思うように.

自然とヒト・人と人をむすぶお手伝いがしたく、"自然とヒト"…いのちの記録をメインに活動している.

ホームページ http://tomomusubi.com/

表紙写真によせて

特集の原稿を拝見し 大宮盆栽村に行ってきました.

残された大きな松の木が 住宅や街路で窮屈そうになりながらも, その存在で 過去とのつながりを感じさせてくれました.

この木々たちは どんな景色をみてきたのだろう。 人々のどんな想いと共にあったのだろう。

大自然を小さな鉢の中に 再現していく盆栽. 美しさだけでなく その厳しさも凝縮して魅せていると知り.

すべてが大自然の流れのなか 起こっていること, 自分自身もその一部分であることを 忘れずにいたいと改めて思いました.

心の安らぎを求めて.

(柿内 未央)

さいたま見沼よみさんぽ 第38号 発行 2021年7月

編集 「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員会 〒 337-0026 さいたま市見沼区染谷 1177-4

Tel 048-680-1891 Fax 048-680-1894 E-Mail johokan@yadokarinosato.org https://www.yadokarinosato.org/ 発 行 公益社団法人やどかりの里

理事長 増田一世

印刷所 やどかり印刷

Gacebook

公益社団法人やどかりの里



公益社団法人やどかりの里は、この大 宮見沼界隈で障害のある人たちとともに 地域で生きることを目指して活動を続け ています. 私たちは長年この地域で活動 し、地域の皆さんに支えていただいてき ました.

そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました。またこの度、広く地域情報をお届けするため「さいたま見沼よみさんぽ」と改題致しました。

「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員一同